

地方独立行政法人大阪府立病院機構がPFI方式を導入して進めている「大阪府立成人病センター整備事業」は、躯体の構築がいよいよ本格化し、更に快調なペースで工事が行われている。地下部では、設備や壁、天井の仕上げが行われており、地上部では六階床のコンクリート打設まで終えた。年内の建て方完了を目指す。

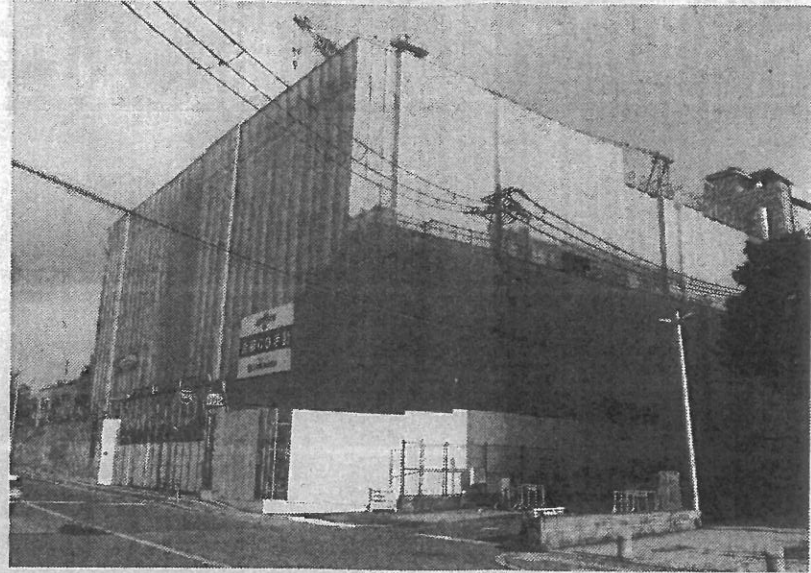
事業主体は、大阪メディカルサポートPFI（高梨雄二郎代表、本社・大阪市中央区本町四）。日本設計・竹中工務店JVの設計、日本設計の監理のもと、竹中工務店が施工している。規模はRC一部S造（免震構造）直接基礎地下2階地上13階（塔屋2階）建て延べ68,377.60平方メートルで、完成予定は28年11月30日。

地下工事では、約10万立方メートルの土砂を掘削した。当初ダンプカーの不足が懸念されたが、丁度工事量が減少する時期と重なり、円滑に調達することができ、1カ月早く昨年11月に完了。それから鋭意地下の躯体工事を進めてきた。免震装置の据え付けでは、性能を厳しくチェックし、大震災から建物を守る要となるよう万全を期した。

地上の躯体構築は今春に着手。1フロア20日のピッチで立ち上げていく。今後、隣接する府庁舎本館耐震改修、立体駐車場等の工事も本格化してくる。成人病センターの現場では設備も入ってくるなど工種が多様化。工事用車両の通行が頻繁になることから、第三者災害の防止に最善を尽くして工事を進める。

また、躯体が上がるにつれ高所作業が増え、資材の吊り上げ作業の時間も長くなる。このため、墜落をはじめ飛来・落下などの事故防止に細心の注意を払っていく。現場の合言葉は「知恵を出し、より良い仕事を安全にみんなで築こう新病院」。これまで重大災害ゼロを継続しており、完成に向けて更に気を引き締めて作業に取り組む。

## 大阪府立成人病センター



地上の躯体工事もいよいよ本格化している大阪府立成人病センター（8月6日）

地上の躯体工事もいよいよ本格化